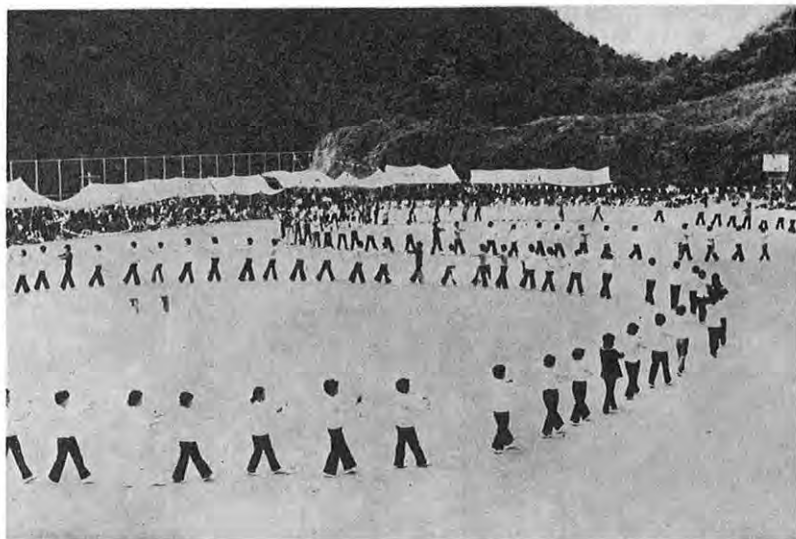


過疎と コミュニティ

新しいふるさとづくり



▲泉村村民運動*

過疎地は、過疎なるが故に、ゆるがせにできない諸問題を多く抱えております。

しかし、最近この過疎地が緑化空間の利用計画上「価値ある地域」として見直されつつある傾向があります。

住民側においても、新しい価値観の上に立った住民参加の村づくり運動が盛んです。ここでは、過疎地を中心としたコミュニティ活動を紹介します、合わせて今後の過疎対策をまとめてみました。

■変りゆく過疎観

「水清く、山むらさぎの我がふるさと
今帰る」

これは、ある新聞投書欄に出ていた球磨郡過疎地域に帰郷する一青年の都会からの脱出の弁でした。

最近、都会からUターンする青年がふえはじめ、年間に七千〜八千人に達するようになりました。十八年間も人口の減少が続いていた本県の人口の状態も四十八年四月から毎月確実に増えはじめているのです。

これは、本県がもっている環境特性が改めて見直されてきたのだと言えることも知れません。

しかし、一時は農山漁村から若者の姿がめっきり減り、出稼ぎで夫婦が長い間離れ離れに暮らし、老人が重労働にあえぎ、医者も姿も見えず、子供の教育にもさしつかえるようになってしまいました。

農山漁村におけるこの人口の急激な減少は地域社会としての集落の崩壊を促し、過疎地においては、基礎的な生活条件の維持すらも困難にまいりました。

そこで、なんとか過疎地域を多くかかえた農山漁村を豊かで住みよい地域としてよみがえらせ、恵まれた自然環境の保全をはかりつつ生活環境の整備を推進し、地域の特性をいかした産業の振興を

はかるための総合的な対策の必要性が叫ばれております。

さて、最近の傾向をみますと、過疎地域が新しい観点から「価値ある地域」として再認識されるようになってきました。

これは、国全体の土地利用計画および国民意識の基調に変化があらわれたこと、それに国の地方分散政策、例えば農林水産物の提供の場としての役割に加えて快適な生活と生産の場として、さらにはレクリエーションの場として大きな役割を果たすことが期待されていることによるものです。

特に、最近国民の声として人間のたのやかな環境の創造が今後の国づくりの目標とされるようになってきた情勢を反映して「未来への可能性を秘めた」過疎地域が見直されるようになりました。

■新しいふるさとづくりの 気運と背景

「魅力のある地域社会は、単なる施設の整備や所得の増大によって達成されるものではなく、住民みずから地域社会の形成に参加し、そうした自主的な参加によって得られる地域社会への連帯感や愛着の心を基盤として、はじめて実現されるものである。」

この言葉は昭和四十八年八月、県が「基本構想」の中で「新しいコミュニティ活動の推進」の冒頭に掲げた提言で

す。

なお、また、昭和三十一年以来、健全な住民活動の育成に努力してきた新生活運動究極のねらいも「人間を大切に新しいコミュニティづくり」であることを考え合わせても、この新しい「ふるさとづくり」は県民の願望であります。

高度経済成長は一方を雑音と公害の街に、一方を味気ない村にしてしまいました。核家族の孤立化した生活は隣人との交流をなくしました。

この現状下、それぞれの地域社会に愛着の深い魅力あるふるさとをもたらす者は住民自身であり、住民の主体的発動が期待されるわけです。

現在、県内で住民主体の新生活運動実践地区並びに活動集団は六十六を数えます。それら地区、集団はそれぞれ、よりよい明日の地域社会を築こうとして生活周辺の身近な課題にとりくんでおります。

熊本県人口推移

年度	月/日	人口
48	3/1	1,684,003人
	4/1	1,673,582
	5/1	1,674,512
49	1/1	1,687,702
	2/1	1,689,371
	3/1	1,690,277

現地に見る

ふるさとづくり

湯前町下田・泉村・長陽村下田



▲泉村婦人学級

過疎地、非過疎地を問わず、より良い明日の村づくりのために、住民が主体となった美化運動、まつりの創造→復活、スポーツあるいは伝統的な行事の保存など、各種の建設的な住民運動が盛んです。

具体例として、ここに3町村における村づくり現況と、その背景を紹介します。積極的な住民参加の姿勢を見てみましょう。

湯前町下田の場合

味噌漬けから

コミュニティづくり



むら立ち

熊本県の東南端に位置し、宮崎県椎葉に接する湯前、ここは国鉄湯前線の終点地点です。その町の南方、田原の中に下田地区があります。戸数八十四、人口は四百十二人。耕地面積は水田四六・川畑六・七haの地域です。

村づくりの発端「生活改善」

この地に村づくり運動の灯がともされたのは昭和二十五年「生活の合理化を計